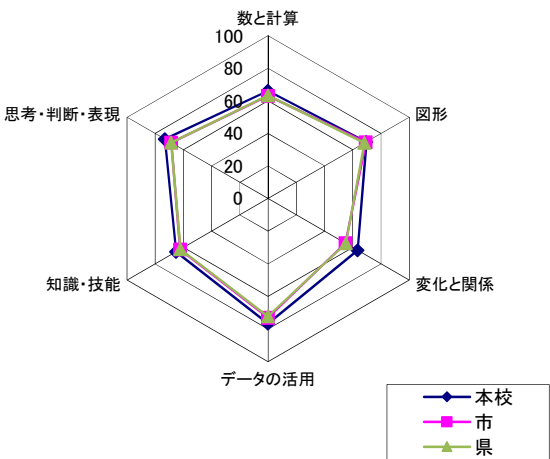


宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.1	63.0	63.3
	図形	69.6	69.2	68.3
	変化と関係	63.5	54.8	55.0
	データの活用	76.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	65.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	73.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率は市平均を上回る(+3.1ポイント)。 ○小数の仕組みを問う設問の正答率は59.5%で、市平均を大きく上回る(+9.2ポイント)。大きい数の計算など、基本的な数の概念は理解している。 ●小数×小数の計算の正答率は75.7%で市平均をやや下回る(-1.3ポイント)。基本的な計算問題を正確に解くことに課題が見られる。	・昨年度の取り組みから、立式はできるようになった。しかし、立式した計算問題を正確に解くことに課題が見られる。宿題や朝の学習の時間などを活用し、繰り返し計算問題を行うことで定着を図る。
図形	正答率は市平均と同程度である(+0.4ポイント)。 ○多くの設問で市平均を上回っており、図形の領域全般において概ね良好な状況が見られる。 ●角に関する設問の正答率は50.0%で市平均を下回る(-3.9%)。教具(分度器、コンパス、三角定規等)の性質を理解していないため、答えを導き出すことに課題が見られる。	・考え方を説明する設問に苦手意識が見られたので、図形の操作活動や発表などの活動を授業に多く取り入れる。
変化と関係	正答率は市平均を大きく上回る(+8.7ポイント)。 ○全ての設問で市平均を上回っており、変化と関係の領域全般においておおむね良好な状況が見られる。 ●割合を使った比べ方について説明する問題では、正答率が47.3%で市平均を大きく上回ったが(+5.5ポイント)、正答率が低い。言葉や数を使って、文章で説明することに課題が見られる。	・割合を求めるだけでなく、割合を使って比べるなど日常生活と結び付ける発問をしたり、終末で学習内容を生活と結び付けて活用させたりする。
データの活用	正答率は市平均を上回る(+3.6ポイント)。 ○多くの設問で市平均を上回っており、データの活用の領域全般においておおむね良好な状況が見られる。 ●2次元の表から必要なことを読み取る問題の正答率は77.0%と市平均を同程度である(-0.4ポイント)。2次元の表の見方は定着しているが、言葉で説明することに課題が見られる。	・昨年度の取り組みから、グラフに対する抵抗感が無くなったように思える。 ・表からデータを読み取る際に、表にある数字が何を表すかを明確にすることを意識させる。